

陳情第 5 9 号		受理年月日	令和 7 年 9 月 3 日
付託委員会		建設建築委員会	
件名	小倉南区若園地区の側溝に蓋を設置して塞ぐことを求める陳情について		
要 旨			
小倉南区若園地区では、通学路や車がたくさん通る道で、道幅が狭いののに深さ 30 センチメートル以上の側溝に蓋がないところが多くある。ここでは、自宅前など必要な場所に関して、自己負担にて側溝に蓋を設置しているところもあるが、そうでない場所も多い。そのため、日々の清掃が大変になっているだけでなく、車椅子や自動車が脱輪したり、小さな子どもやご年配の方が転落したり、救急車で運ばれるような大きなけがにつながる事故も発生しており、地元からは、側溝に蓋を設置し塞ぐ事への要望が多く上がっている。 令和 7 年 3 月にあった北九州市議会の一般質問でこの件について質問があったと思うが、市から、「側溝の蓋かけには、清掃が難しくなることに加え、排水能力の低下等さまざまな課題があり、原則行っていない。」との答弁があった。 また、令和 7 年 6 月発行の北九州市上下水道局広報誌では、家庭・地域でできる浸水対策として、排水路の清掃が紹介されていた。雨水ますの上に溜まった落ち葉を取る清掃についてご協力くださいとあるが、若園地区の実態として、何百メートルと伸びている蓋をかけられていない側溝については、近所の方々が深い側溝に片足を突っ込み、時間をかけて清掃をしているからこそ詰まっていない。側溝に蓋がないからこそ、側溝にたくさんの葉っぱやごみがそこにたまり、清掃を困難にしており、最初から溝蓋や側溝が見えないようにしている地区に比べ、同じ住民税を払っているはずの若園地区の住民に大きな負担を強いているのが現状だ。また、清掃を困難にしているだけでなく、事故やけがにつながるような事が起こっている現状を何年も前から訴えているにも関わらず、市としての対応を住民と共に検討せずうやむやにしているのは、市民の安心・安全を著しく軽んじており、遺憾である。			

今後、安心・安全なまちづくりを考える上で、側溝については清掃のしやすさに配慮しつつ、けがにつながらないような対策が喫緊の課題であるとする。この町で暮らす人々の安全を第一に考え、早期の改善を求め、市には次のとおり陳情する。

- 1 町内会など地元の方々と一緒に、現在排水溝が常時開いている箇所の総点検を実施し、蓋がなく安全対策が必要な側溝を把握すること。
- 2 地元の要望を確認した上で、早期に予算を組んで側溝に蓋を設置すること。
- 3 側溝の掃除を極力減らせるように工夫し、その清掃方法を周知するなど、地域住民と連携を図っていくこと。